

## ひもろぎの意味

「ひもろぎ」とは神社以外の場所において祭りを行う場合、臨時に神を迎えるための代わりとなるもの。八脚台という木の台の上に杵を組み、その中央に榊の枝を立てしれもめん紙垂を木綿に取り付けたものである。古来、日本人は自然の山や岩などに神が宿っていると信じてきた。祭りが神社で行われるようになると、榊などを立てて、神の宿るところとしてきた。この榊などを「ひもろぎ」と呼んだ。つまり神を迎える際に神が宿る場所のことである。

### 各部の名前

ひもろぎは竹ざお3本(2本は長さ2m、1本は3.35m)に紙を折り曲げて下げた輪4個と青い布を下げた小輪2個と赤い布を下げた小輪1個とを交互に結び付けひもで3本の竹ざおに巻きつける。紙は穂北地区で作られる和紙を使うことになっている。

ひもろぎの重さは約10kgある。この装身具を着用して自由自在に踊ることはかなりの重労働である。

